

未来大賞

佐々木 友喜

「誰もが『言葉』を持てる社会へーライフストーリーを紐解くー」

<要旨>

小学生の頃から「男女」のカテゴライズに疑問を抱いていた私は、先生やクラスメイトと考え方が合わず、学校に居場所を失ってゆく。中学生になっても居場所を得ることはなく、私は不登校になった。しかし、活動家マララ・ユスフザイの自伝『わたしはマララ』をきっかけに、自分の心にあるモヤモヤした感情はジェンダーや社会学にまつわる「言葉」を用いれば説明できることを知る。この経験が、私の原点である。本レポートは、「ジェンダーを社会学する」スタートラインに立ったいま、それに救われてきた私が自身のライフストーリーを紐解き、誰もが「言葉」を持ち「声を上げられる」社会を生きていきたいと思うまでの過程をまとめたものである。